

# 令和3年度 さいたま市立日進北小学校 自己評価書

校長 平塚 信也 印

## 1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「さらに 日本一すてきなあいさつ日北っ子」を実践する。
- (2) 「GIGAスクール構想」を具現化するために、ICT教育やタブレット活用を推進する。
- (3) 子どもに任せることでやる気を育て、授業・行事・学級活動等子どもの自主性を育てる。
- (4) 家庭・地域と連携し、子どものやる気を育てる。
- (5) 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと働ける職場をつくる。
- (6) 教員が授業で勝負できる環境をつくる。

## 2 評価結果について

- ・「あいさつ」指導を継続的に取り組んだ結果、あいさつが定着しつつある。児童の90%、保護者の87.5%が肯定的な評価であった。概ね高い評価であったが、子どものあいさつの実態を、教職員は70%の評価とし、地域の方からは記述欄において、「あいさつしてもあいさつが返ってこない」というご意見をいただいている。あいさつに対する教職員と子どもの認識に違いがあること、子どもたちは地域でのあいさつが苦手であることなどの課題がある。
- ・「GIGAスクール構想」実現に向けて、エバンジェリストが中心となり、タブレット活用研修を継続的に実施したことから、「ICT教育の推進に努めている」の項目に対して、保護者は85.6%、教職員は97%が肯定的な回答であった。
- ・「よい授業」の4つの因子すべてが市の平均以上であった。また児童から「授業が楽しい」96%、「授業が分かりやすい」97%、保護者からは「基礎基本に重点を置き学力の向上に努めている」に88.9%の肯定的な評価を得た。
- ・「学校は情報発信や家庭への連絡をきめ細かく行っている」の項目に対して、86.5%の保護者が肯定的な回答をした。
- ・「やりがいをもって仕事している」の項目に対して、84%の教職員が肯定的な回答をした。また、「残業時間の短縮」については、70%の教職員が「短縮が図れた」と回答したが、30%が「あまり図れていない」と回答した。
- ・学校評価「主体的・対話的で深い学びの実現」に教員の94%が、「子どもが分かりやすいよう工夫して授業している」に教員の98%が肯定的な回答をした。また、「よい授業」の4つの因子①授業マネジメントでは0.3%、因子③授業スキルでは0.4%、前年度の市平均を上回った。

## 3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・各教科領域で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、児童ひとり一人に「学ぶ楽しさ」を育てていく。特にSDGs教育、STEAMS教育を通じて問題発見探求型の授業を構成していく。その際タブレット端末を利用するなどしてICT教育にも力を注ぐ。
- ・働き方改革を推進し、生き生きと働ける職場づくりを継続する。特に分掌組織の改善を続け、事務処理等の生産性を高め残業時間を減らしていく。
- ・コミュニティスクールを立ち上げ、活動を軌道に乗せる。年3回の学校運営教委議会とスクールサポートネットワークの連携・協働を進めより実効性の高い組織をつくる。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。